

**DH SYSTEM**

大日本塗料株式会社

商品番号 1858-N

エポニックスWP-ST夏型

1. 一般名 水道用液状エポキシ樹脂塗料
2. 規格 JWVA K 135-2007 標準形
3. 特徴
1) 厚膜塗装性がすぐれている。
2) エアレススプレー性がすぐれている。
3) 物理的、化学的性質がすぐれている。

4. 塗料性状

項目	内容			
容姿	2液性			
荷姿	20kgセット(主剤:17kg、硬化剤:3kg)			
色相	グレー、ライトグレー、黒			
密度(23℃)	塗料	1.31(グレー)		
	揮発分	0.85		
加熱残分	73%(グレー)			
乾燥時間	温度	10℃	20℃	30℃
	指触	2時間	1.5時間	75分
	硬化	36時間	22時間	16時間
標準膜厚	300μm			
引火点	SDS参照			
発火点	SDS参照			
爆発限界(下限~上限)	SDS参照			

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

6. 施工上の注意

- 使用時には主剤と硬化剤を規定の割合に混合し、十分に攪拌して均一な塗料状態にする。
- 一度に厚くつけるハイビルドタイプの塗料である。刷毛捌きをよくする為の過度の希釈や必要以上に伸ばして塗装することなく所要量を塗布し、厚膜保持に努める。
- 主剤と硬化剤を混合した後は可使時間以内に使いきる。
- 冬期気温が低い場合(10℃以下)には塗料硬化がほとんど進まず乾燥が遅れるので塗装間隔は十分注意する。
- 硬化剤が皮膚についた時はまずシンナーで洗い、次に石鹸水で洗う。この硬化剤には遊離のアミンを使用していないので、極端な皮膚刺激性、悪臭などはない。
- 本塗料は溶剤型のため、JWVA K 135に規定された臭気の考慮が必要な箇所(上水道用途の水道鋼管内面、バルブ内面等)に本塗料を適応する場合、自然乾燥では通水までに長期の養生期間を必要とする。適応の際には強制乾燥を行うか、JWVA K157(無溶剤型エポキシ樹脂塗料、エポニックスWP-NSまたはエポニックスWP-NSローラー用)の使用を推奨する。
- 上記、臭気の考慮が必要な箇所に本塗料を適応する場合、必ずエポニックスWP-STシンナー内面用(夏冬兼用)を使用すること。その他臭気の考慮が不要な箇所、作業性に問題がある場合はエポニックスWP-STシンナー夏用を使用してもよい。
- エポニックスWP-STシンナー内面用及びエポニックスWP-STシンナー夏用以外のシンナーを使用しないこと。

5. 塗装基準

項目	内容			
下地処理	ブラスト法: ISO-Sa2 ¹ / ₂ (SSPC-SP10)			
調合法	主剤: 85部、硬化剤: 15部(重量比)			
可使時間	10℃	20℃	30℃	
	8時間	6時間	4時間	
塗装雰囲気	温度10℃~35℃、湿度85%以下			
使用シンナー	エポニックスWP-STシンナー内面用			
塗装法	塗装方法	刷毛塗り	エアレス塗装	
	希釈率	0~10%	0~10%	
	理論使用量	135g/m ²	669g/m ²	
	標準使用量	175g/m ²	1140g/m ²	
	標準膜厚	60μm	300μm	
	ウェット管理膜厚	100μm	520μm	
塗膜硬化時の過熱温度範囲	80℃以下(事前に1日以上放置してから加熱すること)			
エアレス塗装条件	1次圧0.42MPa(4.2kg/cm ²)以上			
	2次圧10MPa(100kg/cm ²)以上 チップNo.GGO-521~725			
塗装間隔	温度	10℃	20℃	30℃
	最小	36時間	22時間	16時間
	最大	7日	7日	7日

注) 標準使用量は被塗物の形状や塗装条件によって異なる。

7. 関連法則

	主 剤	硬 化 剤
危険物表示	第4類第1石油類	第4類第1石油類
有機溶剤区分	第2種有機溶剤含有物	第2種有機溶剤含有物
有害物質表示	SDS参照	SDS参照

8. 使用上の注意 [警告]

- (1) 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。